

## 武蔵国稲毛荘を領した御家人 稲毛三郎重成の足跡をたどる

現在放送中のNHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』の舞台は権謀術数渦巻く平安時代末期から鎌倉時代初期。伊豆の国市や鎌倉市等が話題として取り上げられることが多いですが、川崎市にも同時期に活躍した豪族(のちに御家人)がいます。稲毛三郎重成です。



▲ 稲毛重成公木像

### 武家社会成立時に活躍

重成は秩父平氏・小山田一族で、父は小山田有重、従兄弟に畠山重忠がいます。1180(治承4)年伊豆での源頼朝挙兵時は平家方として敵対するも、後に秩父一族と共に頼朝へ帰伏し、北条政子の妹を妻に迎えました。多摩丘陵の広大で肥沃な武蔵稲毛荘(墓所の石板によると川崎市・稲城市)を頼朝から安堵(土地所有を承認し保証すること)され、現枳形山に枳形城を築城したといわれます。重成は愛妻家として知られ、廣福寺(多摩区枳形)の墓所の石板には、「重成別離の愁に耐えず出家、廣福寺を氏寺とし中興、建久9年12月28日三回忌供養に相模川に架橋(馬入橋)橋供養をする」と妻病没の際の様子が記されています。

頼朝の重臣として鎌倉幕府開府に尽力した重成ですが、頼朝亡き後、無実の畠山重忠を讒言(ざんげん)したとされて謀殺されます。しかし、これは有力御家人を次々に粛清し、執権としての地位を確立していく北条氏の策謀によるもので、重成の裏切りではなかったといわれています。

### 鎌倉防衛の重要拠点「枳形城」

豊かな自然が息づく生田緑地に枳形城跡と呼ばれる枳形山があります。標高84mの枳形山は生田緑地で一番高い場所。山頂の枳形山広場には遊具や展望台があります。展望台からは東京都心や多摩川など360度のパノラマが楽しめます。城が築かれるのも納得の見晴らしです。



▲ 展望台からの眺望

「枳形」の名は、山の斜面が絶壁となっており、山頂が正方形に近いことに由来するといわれています。枳形城は奥州方面から鎌倉を守る「要塞」としての機能を持ち、多摩川沿いの丘陵地には、この枳形城をはじめ、小沢城・作延城・亀井城・有馬城・井田城・加瀬城など山城が連なり、鎌倉幕府の北の守りを固めていました。

### 現代にも生きる稲毛重成の名

株式会社いなげやは一都三県を中心に132店舗を構えるスーパーマーケットです。かつての稲毛荘の出身だった創業者である猿渡波蔵さんが、後世まで地域の人たちに尊敬されていた稲毛三郎重成にあやかって屋号を「稲毛屋」とし、1900(明治33)年に「稲毛屋魚店」を開業しました。2015(平成27)年のいなげや川崎登戸店オープンの際には、稲毛重成が眠るとされる廣福寺にいなげやの社長や専務、店舗開発の方々が祈願の参拝をされたとのこと。生まれ育った場所やその地の歴史を大切に思われていたことが伝わるお話です。



▲ 昭和5年頃の「稲毛屋魚店」

### 歴史散歩はいかがでしょう

NHK大河ドラマ『鎌倉殿の13人』は、伊豆国の豪族であった北条家の次男・北条義時が、執権として鎌倉幕府の実権を掌握していくストーリーです。源平合戦で敗北し、流人として北条家に行き着いた源頼朝。その世話をする義時は、頼朝に振り回されてばかりで、後に武士の頂点に立つ若者とは到底思えません。権力の座に上り詰めていく様子がどのように表現されていくのか、物語の展開が気になるところです。

悲劇の最期を遂げた重成は、緑深い枳形山のふもと廣福寺で愛妻と並んで眠っています。安らかな眠りであることを祈りつつ、もう少しこの地域の歴史について知りたいな、調べてみようかな…、そんな気持ちになる春の散歩道でした。



◀ 稲毛山 廣福寺

廣福寺の寺池は枳形城主の館跡ともいわれており、本堂内には木造稲毛重成坐像(室町時代作)が祀られています。

枳形城主 稲毛三郎重成之墓  
内室 一室圓如大禅定尼之墓  
(石板より)

廣福寺の観音堂の裏には重成の墓といわれている五輪塔が伝えられています。



#### 取材協力

稲毛山 廣福寺

株式会社いなげや

生田緑地共同事業体

NHK横浜放送局 かながわ東営業センター